

議員協議会における意見等の概要及び市の考え方

1 意見等に対する対応

区分	件数
ア 反映する意見	11件
イ 趣旨同一の意見	7件
ウ 参考とする意見	3件
エ 対応が困難な意見	0件
オ その他	20件
計	41件

2 意見等の概要及び市の考え方

(1) 計画全体

No.	意見等の概要	市の考え方
1	<p>基本構想 2030 は「市民と行政が共に取り組むまちづくりの方針」とされているが、市民と行政の関わりがまちづくりの場で増えている。これまでの関係性から変化してきていることを踏まえると、市民の声を聴くことが大事だと捉えている。</p> <p>引き続き、市民の声を聴く取組みをしてほしい。</p>	<p>【イ 趣旨同一の意見】</p> <p>計画策定の視点に記載のとおり、大きな変革を成し遂げていくためには、市民と行政が理念やまちづくりの方向性を共有した上で、具体的な行動につなげていくことが重要です。</p> <p>そのため、基本計画の策定に当たっては、アンケートや市公式LINEを通じた意見募集をはじめ、市民ワークショップの開催、さらには、松本「シンカ」推進会議における議論を通じて多くの市民意見を計画に反映してきました。</p> <p>引き続き、計画の推進に当たっても、市民の皆さんの声を聴きながらまちづくりを進めます。</p>
2	<p>総務委員会から提言した「まちづくり」や、これから提言する「定住」、一般質問をした「農業」などのテーマが網羅されている。市民の意見をよく聴いて、良い意見は前向きにやっていただきたい。</p>	
3	<p>基本構想策定時に、自治法の改正で基本構想の策定義務はなくなったが、基本構想、基本計画、実施計画という3段階の展開は継承するとしていた。</p> <p>その上で、基本計画と実施計画は施策の推進につながっているのか。また、成果指標の妥当性を市民と共有するとしていたが、第12次基本計画の策定においては、どのような対応をしたのか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>基本計画に掲げる政策の方向性や基本施策については、毎年度策定する実施計画において、より具体的な事務事業として位置付けることにより、施策の着実な推進につなげていきます。</p> <p>また、第12次基本計画の策定に当たっては、成果指標について支援事業者による検証を行うとともに、松本「シンカ」推進会議において妥当性を含めた意見をいただいた上で設定しました。</p>

(2) 総論

No.	意見等の概要	市の考え方
4	<p>【計画策定の前提となる社会背景】 税金が上がらないことを前提とした記載となっているように見える。実際には税金は上がっているため、誤解を招く表現については直してもらいたい。</p>	<p>【ア 反映する意見】 3 ページの計画策定の前提となる社会背景のうち「ア 時代の重要な転換期」に係る説明文を修正しました。</p>
5	<p>【計画策定の前提となる社会背景】 災害に強いまちづくりを進めるとあるが、防災無線が届かない部分については、多様な主体が関われるコミュニティ FM など、メディアの活用ができるのではないかな。</p>	<p>【イ 趣旨同一の意見】 災害時の情報伝達においては、多様・多重な手段を確保することが重要であると認識しています。防災行政無線が届かない場合の補完手段の一つとして、コミュニティ FM のエフエムまつもとをはじめ、FM 長野、テレビ松本の地域密着メディアと災害時におけるラジオ放送の要請に関する協定を締結しており、基本施策 5-10「危機管理体制の強化」において協定を結ぶ民間団体等との連携強化を位置付けているほか、メール配信、市公式 SNS 等も活用した情報伝達体制を構築しています。</p>
6	<p>【計画策定の視点と構成】 4 つの重視する視点を定めるに当たり、改めて 5 つの行動目標を重視するに至った経過は。 また、5 つの行動目標は、「みとめる」「まなぶ」「いかす」「つなぐ」の先に「いどむ」があるという循環する設定になっているはずだが、第 11 次基本計画では、手前の 4 つのステップは達成できているから、「いどむ」に焦点を当てたということなのか。</p>	<p>【オ その他】 4 つの重視する視点を定めるに当たっては、5 つの行動目標が、市民と行政が共に取り組む行動目標として重要であるとの考えの下、改めてその考え方を重視しています。この点は、松本「シンカ」推進会議からも、引き続き、5 つの行動目標を実践していくことが重要とのご意見をいただいています。 その上で、後期 5 年は、4 つのステップの先にある具体的な挑戦や行動につなげていく段階にあるとして、特に「いどむ」に焦点を当てることとしました。 なお、「いどむ」に焦点を当てることは、他の行動目標が達成されたという意味ではなく、引き続き、5 つの行動目標を循環させながら、まちの「シンカ」を進めていく考えに変わりはありません。</p>

7	<p>【計画策定の視点と構成】</p> <p>若者と女性という視点は国も県も言っていることなので良いと思う。</p> <p>ただし、女性を強調している表現がひっかかるので、どのような議論があってこの女性という表現になったのか。</p> <p>また、結婚や出産をしない女性もいるし、ひとり親で頑張っている女性もいる。出産できる年齢の女性優遇と捉えられないようにしてほしい。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>女性という表現については、社会や家庭において依然として残る無意識の偏見や性別役割分担意識といった課題を踏まえ、性差にとられないジェンダー平等社会の実現を目指す観点から、男性に対する性として用いています。</p> <p>一方で、価値観や生き方が多様化する中において、結婚や出産の有無などによって対象を限定するものではなく、個人の意思を尊重し、ひとり親として生活する方を含め、全ての人が一人ひとりの希望を実現できる社会環境の整備を目指します。</p>
8	<p>【計画策定の視点と構成】</p> <p>重視する視点のうち「新たな価値を創出する多様な産業の振興」において「観光をはじめ」という説明がされており、観光施策に重点を置くというふうに受け止めている。</p> <p>その上で、産業という言葉を重視した施策とならないよう、日常の大切さの上に観光があるという考えをベースに置いてほしい。</p>	<p>【イ 趣旨同一の意見】</p> <p>基本施策7-4「変化する時代に対応した観光戦略の推進」に記載のとおり、観光戦略の推進については、市民が幸せに暮らしている地域そのものが、結果として観光客を引き付ける魅力となるという視点を基本に据えています。</p> <p>また、観光は、宿泊、飲食、販売、交通、ものづくりなど、市民の日常の営みと密接に関わりながら収益や雇用を生み出す裾野の広い産業であるとの認識の下、多様な産業の振興につながる施策として推進します。</p>
9	<p>【主要指標】</p> <p>財政推計は、普通建設事業費が令和11年度に大きく減少しているが、ベースとなる市民生活の部分の予算は担保されるのか。</p> <p>また、この財政推計は、今後予定している庁舎の建替えや市立病院の建設、広域でいけば焼却炉、消防局の建設などの大型ハード事業は考慮されているのか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>財政推計では、扶助費や人件費、施設の維持管理費など、市民生活の基盤となる予算を優先的に確保したうえで、各年度の収支の差を普通建設事業の可能額として試算しています。このため、今後は普通建設事業費が減少する試算となっていますが、市民生活に直結する基本的な予算は担保される見込みです。</p> <p>その上で、庁舎の建替えや市立病院の建設など大型ハード事業については、実施計画等において事業の必要性や優先順位を十分に見極めるとともに、国・県補助金の積極的な活用はもとより、基金や市債の適切な活用など多様な財源確保策を講じながら、財政の健全性</p>

		を保ちつつ必要なタイミングで着実に実施します。
10	<p>【主要指標】</p> <p>財政指標は、経常収支比率を90%台と推計しているが、第11次基本計画の財政推計では80%台であった。この90%台前半という数値は良いのか、悪いのか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>経常収支比率は、数値が低いほど財政運営の弾力性が高いことを示していますが、全国的な傾向として、少子高齢化に伴う社会保障関係費や人件費の増加など、義務的経費が構造的に増加していることから上昇傾向にあります。</p> <p>松本市においても、他の中核市と同様に今後は90%台前半で推移するものと見込んでいますが、従来から継続している「計画行政の推進」と「健全財政の堅持」を財政運営の基本姿勢とし、持続可能な財政基盤の強化に努めます。</p>
11	<p>【重点戦略】</p> <p>DX・デジタル化の説明文について、片仮名表記が多いと感じることから、分かりやすい表現としてもらいたい。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>DX・デジタル分野では、新しい概念や技術を表すために片仮名表記の用語を用いざるを得ない場合がありますが、市民の皆さんに内容が十分に伝わるのが重要であることから、全ての世代の方に分かりやすい表現となるよう、分かりづらい表現について用語解説を追記しました。</p>
12	<p>【重点戦略】</p> <p>「ゼロカーボン」及び「DX・デジタル化」を重点戦略として位置付けているが、福祉分野をはじめとした全ての基本施策に横串を刺すことが妥当なのか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>2つの重点戦略は、いずれも特定の分野に限られるものではなく、福祉分野を含む全ての基本施策に関わる横断的かつ基盤的な戦略として、市政運営全体の方向性を示すものです。</p> <p>また、「ゼロカーボン」及び「DX・デジタル化」は、計画を着実に実現していくための重要な手段であることから、各基本施策においてこれらの視点を踏まえた主な取組みを示しています。</p>

(3) 各論

No.	意見等の概要	市の考え方
1 3	<p>【基本施策 1-1】</p> <p>成果指標の「合計特殊出生率」は、第11次基本計画の目標値から下げずに、同じ数値目標でも良いのではないか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>第11次基本計画では、現状値 1.56 に対し目標値を 1.62 としていましたが、第12次基本計画では、直近の実績を踏まえ、現状値 1.44 に対し目標値を 1.50 と設定しています。</p> <p>第11次基本計画の目標が未達成であり、現状値が下がっていることを真摯に受け止め、その上で、現状値からの改善幅は 0.06 ポイントと変えず、引き続き、目標達成に向けて取り組みます。</p>
1 4	<p>【基本施策 1-1】</p> <p>成果指標の「合計特殊出生率」の目標値 1.50 の設定根拠は。</p> <p>また、合計特殊出生率は、あくまで出産適齢期の方が全員出産されることを想定して計算された数値だと思うので、出産適齢期の方の何割が出産される想定なのか教えてほしい。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>成果指標として設定している合計特殊出生率 1.50 は、人口ビジョンにおいて、令和 22(2040)年に国民希望出生率である 1.80 に到達する将来像を示していることから、そこから段階的な改善を見込み、令和 12(2030)年時点の目標値を逆算により設定したものです。</p> <p>なお、合計特殊出生率は、出産適齢期の方の一定割合が出産することを想定した数値ではなく、年齢ごとの出生状況を合算した指標であり、個人に出産を求めるものではありません。</p> <p>松本市では、出産する、しないを含めた個人の意思を尊重した上で、子どもを持ちたいと希望する方が、その希望を実現しやすい社会環境を整えることが重要であると考えており、その取組みの方向性を示す指標として設定しています。</p>
1 5	<p>【基本施策 1-2】</p> <p>子育てについて、行政による保育サービスの充実だけでなく、家庭も役割を担うことや地域で子どもを育てるといった視点も感じられる施策を考えてほしい。</p>	<p>【イ 趣旨同一の意見】</p> <p>基本施策 1-1「結婚・出産・子育て支援の充実」に記載のとおり、「こどもプラザ」や「つどいの広場」事業などを通じて、保護者同士の交流や学びの場を提供するとともに、子育てにおける家庭の役割を伝えるなど、地域で安心して子育てができる環境を整備します。</p>

16	<p>【基本施策 1-3】</p> <p>成果指標の「不登校状態であり関係機関等とのつながりが無い児童生徒の割合」について、人数でいうと何人になるのか。</p> <p>目標値をもっと少なくしても良いのではないか。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>現状では、不登校で関係機関とのつながりが無い児童生徒は、小学生が314人、中学生が329人となっています。</p> <p>人数ベースでの目標値設定も検討しましたが、全体の児童生徒数は今後も変動することから、施策効果を適切に把握するため割合による成果指標としています。</p> <p>その上で、フリースクールの利用促進や教育支援センターなど関係機関とのつながりを強化する取組みをより一層進めることを目指し、目標値を修正しました。</p>
17	<p>【基本施策 1-3】</p> <p>不登校の子どもが増えている中、教育の在り方を専門家、当事者、親も含めて研究・検証する機会が必要ではないか。</p> <p>文言として、不登校の子どもを理解するという点を入れてほしい。</p>	<p>【イ 趣旨同一の意見】</p> <p>不登校の児童生徒が増加する中、学校が子どもの個性を大切に、全ての子どもを包み込むような教育を進めていくことが重要だと考えています。</p> <p>その上で、不登校の児童生徒に対しては、当事者や保護者、支援機関等と連携しながら、それぞれの子どもにとって最も学びやすい場所や環境につなげているところです。</p> <p>このため、関係者との研究・検証を行うことや、不登校の子どもを理解する視点を重視することは、施策を進める上で不可欠であり、こうした考え方は施策の方向性に記載した不登校支援に包含しています。</p>
18	<p>【基本施策 1-4】</p> <p>児童虐待のことは現状と課題及び施策の方向性に記載はあるのだが、児童虐待の数を減らしていくという視点での成果指標を入れてほしい。</p>	<p>【ウ 参考とする意見】</p> <p>児童虐待への対応については、最終的に事案の解消や再発防止につなげていくことが重要である一方で、その過程においては、潜在的な事案を含めたより多くの事案を早期に認知し、適切に対応することが不可欠であると考えています。また、児童虐待の件数は、行政の取組みだけではなく、社会情勢や家庭環境の変化など様々な要因により増減することから、適切な成果指標の設定について、引き続き検討します。</p> <p>なお、児童虐待に関する相談件数については、毎年「事務報告書」を通じて公表しており、</p>

		今後も市民の皆さんが現状を把握できるよう情報提供に努めます。
19	<p>【基本施策 1-6】</p> <p>施策の対象が「子ども」なのか「若者」なのか、両者が混在し、誰のための施策かが見えづらいので整理してほしい。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>松本市が施策の対象とする若者の年齢範囲を記載するとともに、施策の方向性ごとに、対象者が子どもなのか若者なのかを整理し明示するよう、修正を行いました。</p>
20	<p>【基本施策 2-1】</p> <p>成果指標の「自殺死亡率」について、実現可能な数値設定が妥当なことは理解するが、現実には難しくても 0 としたほうが良いのではないか。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>松本市は、国の「自殺総合対策大綱」や県の「長野県自殺対策推進計画」との整合性を図り、松本市自殺予防対策推進計画において、目標値を定めています。国・県の根拠法令の説明を加え、成果指標の表記を「12.2 以下」に修正しました。</p> <p>目指す姿は「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」であることから、誰一人として命を失うことのない社会の実現に向け、具体的な施策を推進します。</p>
21	<p>【基本施策 2-3】</p> <p>成果指標の「地域猫の不妊・去勢手術補助金実績」だが、施策の成果指標としては限定的すぎないか。「飼い主のいない猫」にすべきではないか。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>松本市は、猫が与えられた命を全うできるようにするとともに、生活環境への被害の減少を目指し、地域において適切に管理していく地域猫活動を支援していることから、地域猫の不妊去勢手術の補助金実績を成果指標に設定しました。</p> <p>なお、地域猫という用語が分かりにくいいため、用語解説を追記し、修正しました。</p>
22	<p>【基本施策 2-3】</p> <p>高齢世帯、独居世帯で猫を増やしてしまうような問題も起きているので、基本施策 3-2「地域福祉活動の推進」に保健所の機能を位置付けてほしい。</p>	<p>【ウ 参考とする意見】</p> <p>人と猫をめぐる問題は、動物の適正飼育にとどまらず、高齢世帯や独居世帯の生活課題とも密接に関わる地域福祉の課題であると認識しています。</p> <p>そのため、動物の命を尊重し責任をもって適切に飼育することを基本としつつ、保健所が担う動物愛護や適正飼育の取組みと地域福祉の関係機関が連携し、実態に応じて必要な世帯への支援を強化するなどの事業を進めます。</p>

23	<p>【基本施策 2-4】</p> <p>今後、地域医療については、医療と介護の連携がとても重要になってくるので、基本施策 2-3「保健衛生・生活衛生の充実」及び基本施策 2-6「一人ひとりが輝ける高齢者福祉の充実」の関連施策に、市立病院の機能を位置付けてほしい。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>松本市立病院建設基本計画において、新病院の診療機能として、感染症医療や地域包括システムにおける地域連携の中心的役割を担う在宅医療・在宅支援等を掲げていることから、同計画を基本施策 2-3「保健衛生・生活衛生の充実」及び基本施策 2-6「一人ひとりが輝ける高齢者福祉の充実」の関連計画としました。</p>
24	<p>【基本施策 2-6】</p> <p>成果指標の「介護保険制度に対して満足していると思う利用者の割合」の目標値について、具体的な目標値にした方が良いのではないか。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>直近の長野県高齢者生活・介護に関する実態調査の結果を基に、「現状値以上」としていた目標値を「86.7%」に修正しました。</p>
25	<p>【基本施策 2-6】</p> <p>事業所がなくなってしまうとサービス提供そのものができなくなるため、事業所の状況を把握する視点を加えてもらいたい。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>介護事業所を取り巻く環境の変化や状況を把握し、事業所支援の取組みを進める視点を加えるよう、施策の方向性の「介護サービスの安定的・継続的な提供」の記載を修正しました。</p>
26	<p>【基本施策 2-7】</p> <p>成果指標の「まいさぼ松本の就労支援プランを作成する生活困窮者のうち、就労者及び増収者の割合」の数値が、第 11 次基本計画の数値から大きく減少しているのはなぜか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>第 11 次基本計画の策定時と比べ、現在は、就労意欲のある支援対象者であっても職歴の不足や病状、障がい、社会性など複合的な課題を抱え、就労に結び付けることが難しいケースが増加しています。</p> <p>また、こうした状況を背景に、企業側の採用環境も一層厳しくなっていると認識しています。このため、第 12 次基本計画では、実態を踏まえた現実的な数値として成果指標を設定していますが、引き続き、成果指標として位置付け就労支援を継続して進めます。</p>
27	<p>【基本施策 3-5】</p> <p>包括的性教育の大事さは認識されていると思うので、どこかに入れてもらいたい。</p>	<p>【イ 趣旨同一の意見】</p> <p>包括的性教育の重要性は認識しており、小中学校で実施している性の多様性講座等を施策の方向性に記載しています。今後の更なる取組みについては、庁内の関係課で検討を進めます。</p>

28	<p>【基本施策 4-4】</p> <p>市議会からもスマート農林業の推進については政策提案を行っている。</p> <p>スマート農業については記載があるため、スマート林業についても記載があった方が良いのでは。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>施策の方向性に、松本市農林業振興計画に沿って、スマート林業の導入・普及により林業事業体の収益性等の向上を図ることを追記し、修正しました。</p>
29	<p>【基本施策 5-9】</p> <p>施策の方向性の「計画的な施設の更新」の中に適切な施設規模への見直しを進めるとあるが、どの施設をどう適正規模にするという理解でいいのか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>全市的に給水量が減少している状況を踏まえ、人口動態や水道使用量の見通しに応じて過不足のない適正な規模となるよう、市内の全ての水道施設を対象に検討します。</p>
30	<p>【基本施策 6-1】</p> <p>目標を「商業地としての魅力を高め、個店の魅力創出と経営力強化を図ることにより、新しい時代の商都松本を目指します」としているが、第11次基本計画では「個店の経営力強化と創出を図る」としていた。順番を逆にした理由は。</p> <p>また、施策の方向性もどちらかと言うと新しく創業する人たちに目が向いていると感じる。既存の地元の商店や個店を大切にしていけますというメッセージがどこかにあった方が良いのではないか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>「個店の魅力創出」を先に位置付けた理由は、単に個店が創出されるのではなく、魅力的な個店が増え、経営力が強化されることが重要と考えたためです。</p> <p>また、施策の方向性に記載のとおり、これまで地域に根差して商いを続けてきた既存の地元商店や個店に対し、小規模事業者への資金繰り支援や、商店街等と連携したイベント開催などを通じて、個店の魅力向上と経営力強化を図ることとしています。</p>
31	<p>【基本施策 6-1】</p> <p>成果指標の「中心市街地の歩行者通行量」について、施策の方向性に賑わい創出を掲げているにも関わらず、目標値が低いのではないか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>中心市街地の歩行者通行量は、現状値においてコロナ前の令和元年を上回っているものの、第11次基本計画で掲げた目標値には到達していません。背景には、コロナ禍を契機とした行動様式の変化やそれに伴う大型商業施設の閉店など、中心市街地を取り巻く環境の大きな変化があります。</p> <p>こうした状況では、歩行者通行量を現状水準で維持すること自体に相当の施策展開が必要であるとの認識から、実現可能性を踏まえた目標値を設定しています。</p> <p>なお、中心市街地の再活性は基本施策 5-2 で整理しており、歩行者通行量の維持・向上につ</p>

		ながる施策を進めます。
3 2	<p>【基本施策 7-3】</p> <p>現状と課題に「障がい者をはじめとした多くの人が、スポーツを通じて社会参画を実現することが重要」とあるが、それに対応する成果指標がない。市民全体が障がい者の方々と一緒にスポーツを楽しめる社会にするためには、成果指標の設定が必要ではないか。</p>	<p>【ア 反映する意見】</p> <p>障がいの有無に関わらず参加できるパラスポーツ体験会を成果指標に追加し、修正しました。</p>

(4) 人口ビジョン

No.	意見等の概要	市の考え方
3 3	<p>【人口推計】</p> <p>今回の改訂に当たっては、人口の目標値を定めないものとし、人口推計では社人研推計のみを記載している。</p> <p>今後、人口に基づき個別計画を定める必要がある場合、人口の扱いはどのように考えているのか。また、その考え方を市内でオーソライズしていくべきではないか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>個別計画においては、客観性を確保する数値として国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を用いることを基本とした上で、計画の性格に応じて担当課において決定することとします。</p> <p>なお、人口ビジョンでは、将来人口を固定的な目標として捉えるのではなく、不確実な社会情勢や急速な技術革新を前提に、幅を持った政策対応が必要であるとの考え方を示しています。個別計画の策定に当たっても、この認識を共通の前提として共有しながら、個別計画の策定を進めます。</p>
3 4	<p>【人口に対する考え方】</p> <p>人口ビジョンの改訂に当たっての考え方からすると、例えば「人口構造安定化」や「人口バランス標準化」、「人口バランス改善」など、松本市が目指したい方向性を端的に表現する別の言葉があるのではないかと思うが、「人口定常化」という言葉にこだわり続ける理由は何か。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>「人口構造安定」や「人口バランス改善」は、松本市が目指す方向性の一部を的確に表す重要な視点であると認識しています。</p> <p>一方で、人口ビジョンで用いている「人口定常化」という言葉は、単に人口規模や人口構造の状態を示すものではなく、人口減少局面においても、出産の希望実現や社会増に向けた取組みを積み重ねることで、世代間のバランスが取れた人口構造を維持・回復しようとする「姿勢」や「進み方」を示す言葉として位置付けています。</p> <p>人口の増減という結果のみを目標とするの</p>

		<p>ではなく、社会環境や経済状況の変化に左右されながらも、松本市という都市が大きく方向を誤ることなく前に進み続けるための考え方を市民と共有する概念として、「人口定常化」という表現を用いています。</p>
35	<p>【人口に対する考え方】</p> <p>脱東京一極集中を目指すとしているが、松本市だけがそうなるも仕方がないのでは。近隣の自治体や全国の他の都市はどのように考えていくのか。</p> <p>中核市としての役割を考えているのであれば、明記すべきだと思う。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>松本市単独で日本全体の人口動向を転換させるような制度改革を行えるとは考えていません。一方で、国全体として人口減少が避けられない中であって、市民の幸福度を損なうことなく次世代へ社会を引き継いでいくためには、東京圏に人や機能が過度に集中している状況を是正し、多極的でバランスの取れた国土構造へ転換していくことが重要であると考えています。</p> <p>そのためには、100万都市のみならず、県庁所在市や、松本市のように一定の人口規模や経済力、都市機能を有する中核市・地域の中核都市が、それぞれの地域で役割を果たしていくことが不可欠です。</p> <p>松本市としては、医療、教育、文化、産業などの都市機能を維持・充実させることで、周辺自治体を含めた広域圏の生活や経済を支える拠点となり、そのことが結果として、脱東京一極集中に向けた全国的な取組みの一翼を担うものと考えています。</p>
36	<p>【人口定常化に向けた目標と共有する未来像】</p> <p>「松本で暮らし続けたい」と思える環境というのは、高齢者になっても豊かに暮せると思える環境であることが重要。</p> <p>人口ビジョンや重視する視点には「若者と女性」だけでなく「誰もが」や「健康長寿」という表現があると良いのではないかと。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>基本構想2030では、目指すまちの姿として「一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまち」を掲げており、高齢者を含め、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを基本に据えています。</p> <p>人口ビジョンや重視する視点に「若者と女性」を位置付けているのは、特定の世代を優先する趣旨ではなく、将来にわたり高齢者を含む全ての世代が支え合える、持続可能な人口構造を実現するための重要な視点であると考えているためです。</p>
37	<p>【人口定常化に向けた目標と共有する未来像】</p>	<p>【ウ 参考とする意見】</p> <p>人口統計は、過去及び現在の人口状況を把</p>

	<p>正確な人口推計は難しいという前提に立たれているが、人口統計ほど正確さを持っている統計値はないと学術的に言われている部分もある。</p> <p>その上で、右肩下がりの人口が上向きに変わることが想定しづらいのではないかと。また、2040年が分水嶺になることはそのとおりで、今が人口定常化の取組みの「最後の好機」としているが、逃した場合のシナリオは考えているのか。</p>	<p>握る上では極めて精度の高い統計である一方、将来推計は、出生、死亡、移動といった前提条件の置き方によって結果が変わる性質を持っており、特に市町村レベルでは、移動の影響や政策の方向性による変動幅が相対的に大きいものと捉えています。</p> <p>その上で、日本全体の人口動向を右肩上がりに転じさせることは困難ですが、自治体単位では、過去30年間を振り返っても、当時の推計と実際の人口とに乖離が生じている例が少なくないことから、将来人口については、一定の不確実性や可変性を前提として捉える必要があると考えています。</p> <p>また、令和22(2040)年を境に生産年齢人口の減少が加速し、その後は人口構成を立て直す余地が急速に小さくなることから、今を人口定常化に向けた取組みの「最後の好機」と位置付けています。</p> <p>なお、人口ビジョンでは、こうした機会を確実に捉えることに注力する考えの下、「好機を逃した場合」のシナリオは設定していませんが、将来の不確実性を踏まえ、状況に応じて柔軟に施策を見直していくことが重要であるとと考えています。</p>
38	<p>【人口定常化に向けた目標と共有する未来像】</p> <p>人口ビジョンに「市民と行政が共に未来を考え、方向性を共有」という言葉があるが、未来像について市民と共有する手段は何か。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>人口ビジョンの改訂に当たっては、人口に対する基本的な考え方や人口定常化の定義、目指す方向性を整理した上で、市民と行政が松本市の将来について共に考え、議論するための共有の土台として、「共有する未来像」をお示ししました。</p> <p>今後は、人口ビジョンの内容について、Webサイトや計画冊子、ダイジェスト版の作成・公表に加え、様々な行政チャネルを通じて分かりやすく発信し、市民との共有を図ります。</p>
39	<p>【人口定常化に向けた目標と共有する未来像】</p> <p>人口定常化に向けた目標に掲げる一定の規模とは具体的にどの程度の</p>	<p>【オ その他】</p> <p>目標に掲げる一定の規模とは、行政サービスの提供や地域コミュニティの維持、地域経済の循環を支えるなど、持続可能な地域運営</p>

	<p>規模か。数値を出した方が良いのではないか。</p>	<p>が可能な人口規模を指しており、年齢構成や社会構造などを含めて総合的に捉える弾力的な概念と考えています。</p> <p>将来の不確実性が高い中で、固定的な人口数値を目標として設定することは、かえって政策の柔軟性を損なうおそれがあることから、一定の規模に具体的な単一の数値目標は設定していません。</p> <p>一方で、規模感を共有することは重要であるため、「幅を持たせた人口イメージ」において、出産の希望実現と社会増がともに達成された場合の人口定常化の姿として3つのパターンを示しており、令和52(2070)年時点では、おおむね20万人から23万人程度の人口規模を想定しています。</p>
40	<p>【人口定常化に向けた目標と共有する未来像】</p> <p>共有する未来像において、社人研推計比で社会増による人口増加率をプラス1.5%ないしプラス3%が条件として必要としているが、2040年に社人研推計比でプラス1.5%を達成した場合、15歳未満の年少人口の人口増加率は何%になるのか。</p>	<p>【オ その他】</p> <p>社人研の人口推計では、純移動率が5歳階級ごとに設定されており、15歳未満の年少人口についても、その設定に基づき将来人口が推計されています。</p> <p>社人研推計では、令和2(2020)年から令和7(2025)年の年少人口に係る純移動率はマイナス0.00820とされており、その後も5年ごとにマイナス幅が拡大していく見通しとなっています。</p> <p>一方で、人口ビジョンで想定している令和22(2040)年時点で社人研推計比プラス1.5%の人口増加率が達成された場合には、15歳未満人口の純移動率はプラス0.00387程度となります。</p>
41	<p>【人口定常化に向けた目標と共有する未来像】</p> <p>「共有する未来像」で示されている社会増と合計特殊出生率の条件値は、難易度が高いのではないかと受け止めている。</p> <p>その上で、これが条件値であるとした場合、「幅を持たせたイメージ」で示されているパターン3では、人口定常</p>	<p>【オ その他】</p> <p>「共有する未来像」において示している社会増や合計特殊出生率の数値は、将来の人口構造を考える上での条件値として設定しているため、難易度が高いと受け止められる側面があることは認識しています。</p> <p>人口定常化の目標設定の考え方に記載しているとおり、人口定常化を実現するためには、社会を支え次世代を育む基盤となる層、特に</p>

	<p>化を実現できないのではないか。</p>	<p>65 歳未満の人口を平準化することが重要であると考えています。</p> <p>この層を安定的に維持することで、医療、福祉、教育、産業、文化などの多様な都市機能を将来にわたって持続することが可能となります。</p> <p>そのため、「幅を持たせた人口イメージ」のパターン 3 は、総人口では減少が続くものの、65 歳未満人口が安定する想定としており、松本市が考える人口定常化の一つの姿としてお示ししています。</p>
--	------------------------	--